

働くものの団結で被災者支援・復興を メーデー上越集会でも参加者がアピール



5月1日、第82回メーデー上越集会に参加してきました。今回は、これまでの平和や雇用を守ることに加えて東日本大震災の被災者支援・復興がテーマに入りました。

集会で、日

本共産党を代表して挨拶した伊藤誠上越地区委員長は、先の県議選での支援にお礼をのべた後、今回の東日本大震災復興財源問題について言及、「政府・民主党などがこの大震災に乗じて消費税をやるうとしている。被災者にも負担を強いる庶民増税ではなく、大企業の内部留保の活用や不要不急の財源を使って復興に生かすべきだ」「雇用守れ、平和守れの力が震災復興につながる」と訴えました。

青年ユニオンなどの団体代表も、「今こそ働くものの団結で、大震災からの復興を」と決意表明しました。メーデー宣言でも震災復興が盛り込まれました。

集会後、参加者は強い風が吹くなかプラカードやのぼり旗を持って高田本町街などをデモ行進、被災者支援・復興とともに「雇用を守れ」「後期高齢者医療制度の廃止を」「TPP参加

反対」などをアピールしました。

個性を輝かせ、大空にはばたけ 上越市成人式で村山市長などが激励

今年度の上越市の成人式が5日、リージョンプラザで行われました。この日、成人式に参加した新成人は約1500人でした。

上越市を代表して挨拶した村山市長は、「自らの力と人の力を信じて災害に立ち向かっていく人たちがいる。そういう人たちに応えよう。みなさんは無限の可能性に挑戦できる。（震災で亡くなった）二十歳の人たちの無念の思いを受け止めて、それぞれの個性を輝かせながら、大空を羽ばたいてください」と激励しました。

新成人を代表してスピーチしたのは風間優太さん、吉田志津香さん、安田佳世さんの3人。3人とも堂々と自分の考えをのべたのでびつくりしました。

このうち、

安田さんは、「今回の大震災で人と人のつながりの強さを感じた。このような日本人であることを誇りに思う。一度きりの人生を自分が満足できるよう精一杯生きていき



【ミヤマカタバミ】カタバミ科。尾神岳のふもとの杉林に咲いていました。薄暗いところが好きな花です。初めて出会いました。次回は花が完全に開いた状態の写真を撮りたいものです。5月7日撮影。

い」と決意をのべました。

支援物資を持ち、16日岩手県へ

日本共産党上越地区委員会と上越市議団は16日から3日間の予定で釜石市などへコメなどの支援物資を届けてきます。私も参加します。

シリーズ 上越市内の橋

第63回 海平橋

「海平橋」と書いて「かいへいはし」と読みます。県道上越安塚柏崎線の橋のひとつです。

橋の近くには、宿泊体験交流施設、月影の郷があります。同施設は2001年3月に閉校した月影小学校を改築して



出来上がり、都市との交流拠点となつていきます。元の学校建物を利用した宿泊施設、上越市内では、この他、スカイトピア遊ランド、川上笑学館などがあります。

橋長は約25メートル。1968年（昭和43年8月）竣工。

雪国の山々は春と秋の二度、華やかな景色をつくりだします。春は四月中旬から一カ月ほどの間。花が咲き、芽吹いた葉は色や形を変え、大きくなります。山がつくりだすピンク、黄緑、赤などの彩り豊かな景色は一度見たら忘れることができせん。いまから一〇年ほど前のことでした。尾神から車で蛭場方面へと下りてくる時に、屏風のような形をした蛭場の山の一角が艶やかな紅色で染まっていることに気づきました。色の感じからいって、明らかに桜の木です。花の色はこれまで見たことがないほど濃いもので、強烈に惹きつけられました。

いったい、どんな桜の木なのか。私はどうしても確かめたくなり、ある晴れた日の午後、濃い紅色をめざしました。

わが家のハサ場があったところに車を止め、そこから歩きました。杉林を通り抜け、急な尾根を登っていくと、急斜面にその木はありました。木は大人と子どもが両手をのびし、手をつなげるくらい太さがあります。外皮はあちこちで裂けていますが、木は大地にがっちり根を張り、天に向かって力強く伸びています。威風堂々とした姿に私は圧倒され、「ああ、これは「桜の神様」だ」と思いました。

木はオオヤマザクラ（大山桜）でした。花はすでに散り始め、地面には紅色の花びらがたくさん落ちていました。それでも枝には花がいっぱいついていて、その美しさは格別でした。青い空のなかに枝とともに広がっている紅色の花、木の下から時が経つのを忘れて観た記憶が残っています。

この頃からだと思いません、蛭場の山々の春の景色が気になるようになったのは。尾神岳と違って黄色の花を咲かせるマンサクは少ないようですが、たくさんのコブシ、ヤマザクラが白や薄桃色などの花を咲かせます。ブナ、ナラ、カエデは芽吹き頃から毎日、色を変えて美しい景色を見せてくれます。だから、蛭場の山々が見えるところを通ると、毎回のようにかメラを向けてしまいます。

こうした春の景色は、遠くから見ているだけでは満足できません。近くに行つて、幹や葉に触ったり、匂いをかいでみたりしたくなります。

このところ、私にはまりこんでいるのはイタヤカエデです。冬芽には褐色の2対の芽鱗（がりん）がありますが、この芽がふくらみ、黄色の花を咲かせる時が気に入っています。陽光があたった時は、木全体が黄色くなって輝いて見えます。また、褐色の芽鱗と黄色の花の組み合わせもいい。

先日、イタヤカエデの木に登ってみました。まっすぐ立っている木ならとても登る元気は出ないのですが、たまたま雪で押され、斜めになった木があったので、思い切って登ってみました。

登ってみたら、冬芽のふくらみは思っていた以上に大きく、褐色の芽鱗を押し広げるようにして黄色の花を咲かせていることがわかりました。近くで見たのは、もちろん初めてです。「こんなふうには咲いていたのか」と、その見事に感心してしまいました。そして、もうひとつ、このイタヤカエデの木の下にも、オオヤマザクラと同じく、風雪に耐えたことが一目でわかる傷あとがあることを発見しました。

五月五日、山菜料理を楽しむ会をやった際、同年代の人たちが口々に語りだした。雪国の春の山の景色っていいねえ。最高だね。厳しい冬があつて、それに耐えてきているから美しい、と。

お陰さまで1500号に到達しました

市政レポートは今号で1500号となりました。創刊は1985年（昭和60年）6月2日です。「町政レポート」としてスタートし、2005年（平成17年）1月からは合併に伴い「市政レポート」に改題、発行を続けてきました。この間、多くの読者のみなさんから物心両面にわたりご支援をいただきました。心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

市政レポートは私の活動報告が主ですが、市民のみなさんと市政をつなぐ地域新聞としての役割を意識しながら発行を続けてきました。

1500号は通過点です。26年間にわたり発行を続けてきたものの、市政レポートはまだまだ改善すべきところがいくつもあります。今回の到達を機によりよい新聞にするようがんばりますので、引き続きご支援くださいますようお願いいたします。

2011年5月8日

上越市議 橋爪法一



東横山の野焼き

柿崎区東横山で4日、野焼きが行われました。東横山の野焼きは、春の風物詩としてすっかり定着しています。ここで作られたコメは、「大出口泉水棚田米」と呼ばれ、美味しいと評判です。

笑い・美味しさいっぱい

日本共産党吉川支部と橋爪法一後援会共催で5日、「山菜料理を楽しむ会」を行いました。

朗読、漫談、オカリナ演奏もあつて楽しさいっぱい、美味しさいっぱいの会となりました。

